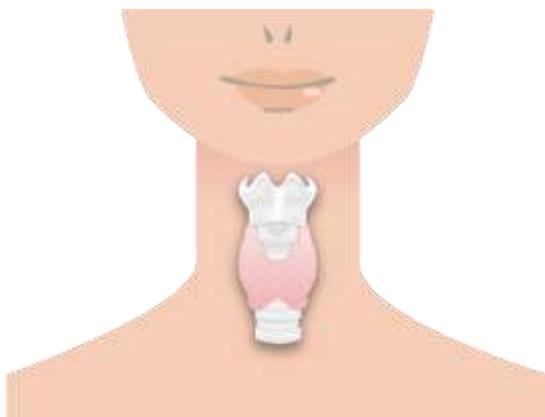


# 甲状腺機能亢進症について



## 甲状腺ってなに？

- 甲状腺は首にある蝶が羽を広げたような形をしている組織です。
- 甲状腺ホルモンは甲状腺から分泌される“体をがんばらせる”ホルモンです。

## 甲状腺機能亢進症（バセドウ病）

- 甲状腺自己抗体によって甲状腺ホルモンが過剰に分泌される病気（甲状腺機能亢進症）をバセドウ病といいます。
- 甲状腺機能亢進症では体を不必要に“がんばらせる”ため、多汗・疲れやすい・動悸・振戦・暑さに弱い・やせる・息切れする・いらいらする・食欲亢進・排便回数多い・目の具合が悪い・眼球突出などが見られます。
- 女性の1.9%、男性の0.16%に見られる比較的多い病気です。

## 甲状腺機能亢進症の治療

- 治療としては内服治療（抗甲状腺薬）が中心となりますが、放射線治療や手術を行うこともあります。

## 甲状腺機能亢進症の注意点

- 喫煙は甲状腺機能亢進症を悪くします。禁煙をしましょう。
- 妊娠中は使える薬に制限があります。妊娠希望者は6か月前までに放射線治療や手術を行っておくのが安全です。内服薬で治療を行った場合で予期せぬ妊娠が判明した時はすぐに医師にご相談下さい。

## 抗甲状腺薬の副作用

- 1-3 ヶ月内服する事で甲状腺の機能が正常化することが多いですが、2-3 年の間は再燃しないようにしっかりと薬を続ける必要があります。
- 副作用は服用開始後 2-3 ヶ月で起こることがほとんどですので、この間は 2 週間毎に受診し、採血をして頂きます。

## 無顆粒球症

- 頻度は 500-2000 人に一人とまれな合併症ですが、体を細菌から守る成分「顆粒球」が減少する最も注意が必要な副作用です。
- 発熱や喉が痛いといった風邪症状がある場合は直ちに服用を中止して受診してください。採血をしないと分からないことが多いため、受診時には抗甲状腺薬を内服中であることをお伝えください。

## 発疹

- 最も多い副作用（5-10%）で、かゆみを伴った皮疹が見られます。
- 服薬を中止し、1 週間以内に病院を受診してください。

## 肝障害

- 軽症の場合は自覚症状が余りありませんので、採血にて確認していきます。
- 非常にまれですが、生命に関わるほどの重症の肝障害を起こすこともあります。

## その他の副作用

- 関節痛・低血糖発作・再生不良性貧血・血尿・発熱などがありますが、いずれもまれな合併症です。内服を中止すると回復します。

## 妊娠・授乳中の内服薬について

メルカゾール®は副作用が比較的少ないため通常用いられる薬剤ですが胎児奇形の報告(通常 2.1%のところ 4.1%となる)があるため、妊娠 15 週まではチウラジール®を用います。なお妊娠が判明してすぐにメルカゾールを中止した場合には奇形は生じなかったとも報告されています。メルカゾールの力価はチウラジールの 20-30 倍でメルカゾール 1 錠=チウラジール 2-3 錠となります。インデラル®は必要に応じて内服可能です。